令和８年度十日町市総合教育会議　議事録

１　日　時　令和８年 10 月 27 日（火）　午後１時 30 分～午後２時 30 分

２　会　場　十日町市役所　防災庁舎　大会議室

３　出席者

市長	関口 芳史
教育長	渡辺 正範
教育委員	廣田 公男
教育委員	川崎 正男
教育委員	小堺 沙織
教育委員	久保田 果奈子

説明担当者

教育文化部長	小林 良久
教育文化部副参事	鈴木 政広
教育総務課長	田村 隆
教育総務課長補佐	中川 直也
学校教育課長	渡邉 正文
学校教育課指導管理主事	長谷川 成生
学校教育課長補佐	柳　尚之

事務局

総務部長	南雲 昌憲
企画政策課長	玉村 浩之
企画政策課長補佐	村山 等
企画政策課企画政策係長	小堺 公美晴
企画政策課企画政策係主事	渡邉 志帆

４　議　題　　「魅力ある十日町市立中学校づくり方針（案)」

５　報告事項　「十日町市立学校教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画」

６　その他

【配布資料】
次第
出席者名簿
座席表
資料１　　魅力ある十日町市立中学校づくり方針（案）
資料２　　十日町市立学校教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画

南雲総務部長（開会）
定刻前ではございますが、皆さんお揃いになりましたので、これより令和８年度十日町市総合教育会議を開催いたします。要綱に基づきまして、本会議は公開で行われます。会議全体の時間は、１時間を予定しております。
それでは、開会の挨拶を関口市長からお願いいたします。

関口市長（開会挨拶）
皆様、大変ご多忙の中お集まりいただきましてありがとうございます。令和８年度の総合教育会議開催にあたり一言ご挨拶申し上げます。
十日町市教育大綱につきましては、昨年末に策定が終わりました。策定にあたりましては、昨年度の総合教育会議で皆様からご議論いただいた中での策定となりました。併せまして令和８年度は、これからの 10 年間を見据えた第三次十日町市総合計画がいよいよスタートした年度となります。こうした取り組みの成果を踏まえ、総合計画が目指すまちの姿「雪と生きる 大地に遊ぶ 未来を創造する市 十日町」に向け、中核の施策をしっかりと進めていかなければならないと認識しております。その実現に向けて一番重要なのは人づくりであり、その基盤である教育の果たす役割は極めて重要であると感じております。 子どもたちに最適な学びの環境をお届けしたいという中での学区の再編・検討、またこれをしっかり固めていく中で、市に誇りを持ってもらい、未来を切り開く力を備えた子どもたちを１人でも多く育ててまいりたいと思っております。
本日の議題は 1 点、「魅力ある十日町市立中学校づくり方針案について」でございます。この学校づくりを検討する中で、昨年度「みんなの学校プロジェクト」が立ち上げられ、皆様や地域の方々からのご意見をもとに学校づくり方針案が策定されました。本日はこの案について皆様と議論を深めてまいりたいと思っております。
もう１点、報告事項として「十日町市立学校教育職員に関する業務管理・健康確保措置実施計画について」がございます。これは法律により、総合教育会議の場で報告することとなっております。教職員の皆様が健康を維持した中で専門性をしっかり発揮していくことが、子どもたちの学びの充実に不可欠と考えており、ご報告申し上げます。本計画をより実効性のあるものにしてまいりたいと感じております。
ふるさとを愛する子どもたちを 1 人でも増やし、雪国文化や縄文などの魅力ある地域資

源を活用した学校教育を進めることが、目指すまちの姿の実現につながると感じております。教育委員の皆様には今後も引き続き教育行政の充実にご協力をお願い申し上げまして、開会の挨拶といたします。よろしくお願いいたします。

南雲総務部長
ありがとうございました。
総合教育会議につきましては、市長が本会議を招集することとされております。つきましては、以降の進行について、関口市長からお願いしたいと思います。

関口市長
よろしくお願いいたします。それでは、進行を務めさせていただきます。
議題「魅力ある十日町市立中学校づくり方針（案）」について、事務局からの説明をお願いします。

教育総務課　田村課長
議題「魅力ある十日町市立中学校づくり方針（案）」資料１に沿って説明を行う。（省略）

関口市長
それでは説明のあった内容について、委員の皆様からご意見を聞きたいと思います。いかがでしょうか。

廣田委員
私からは、地域や社会と力を合わせた学校づくり、要するにコミュニティ・スクールについて質問・意見を申し上げます。
どうしても地域からは「学校が１校になると中心部に偏り、自分たちの地域が見捨てられるのではないか」という懸念がアンケートや会議でも出ていました。本市は非常に広く、東京で言えば山手線の内側とほぼ同じ面積に 1 校の中学校を作るわけですから、周辺地域からすれば非常に遠くへ行ってしまう感覚になるのは無理もありません。そこへ子どもを預ける保護者や教育委員会にも相当の覚悟が必要です。
地域との繋がりが薄くなる懸念がある一方で、人材が増えて活用できるメリットもあります。コミュニティ・スクールとして活用するため、運営協議会の人数を現在の 5〜6 人から 3 倍程度（15〜18 人規模）に増やし、開催頻度も年 2 回から月 1 回程度へ増やして地域との繋がりを深めていただきたいです。
また地域コーディネーターについて、現在は各校 1 人（市全体で 10 人）ですが、メインのコーディネーターを常勤化して新潟市のように職員会議にも参加できるようにしていただきたいです。さらに各地域に 10 人体制を維持できるような補助委員を設置し、各地域の事情に詳しい人に加わってもらう体制をぜひ維持・構築していただきたいと思っておりま

す。

渡辺教育長

廣田委員がおっしゃられた地域の声は認識しております。広域化により薄れがちな感覚を埋めるのが地域の役割だと考えております。コミュニティ・スクール（学校側からのアプローチ）だけでなく、地域が主体となって学校にアプローチする「地域学校協働活動」の動きも強化し、地域と学校の関係を深める必要があります。

もう１点は中学校区が広がることで、子どもたちも地域も広い視点で様々な分野を見渡すことができるというスケールメリットもあります。

また小・中学校で異なる視点も必要です。小学校は足元の地域に密着したコミュニティ・スクールを推進し、中学校は広大なエリア全体を通じた広い視野での取り組みを進めるという、メリハリのあるアプローチをしっかり行ってまいりたいと思います。

川崎委員

学校運営協議会（コミュニティ・スクール）では、校長の示す「学校経営方針の承認」が重要な役割となります。新中学校の校長には、十日町市全体を学びのフィールドとしながら、これまでの各中学校区の良さを活かした責任ある学校経営方針を打ち出していただき、協議会で承認・応援してもらう形が大切になります。

小学校と中学校それぞれの視点で地域と密着・連携しながら運営していくことが重要だと考えております。

久保田委員

みんなの学校プロジェクトに保護者代表で参加いたしましたが、市民の皆様が将来のことを考えて熱心に議論されていました。ただ、意見をまとめる中で遠方（松之山など）や小規模校の方々のトーンが下がってしまうような場面も感じました。

教育委員として情報を知る中で、教員数や生徒数を考えると「全市１校」を目指すのは避けられない流れだと理解できます。しかし、地域から学校が離れる寂しさや負担感を考えると、全員がすんなり賛成できるわけではありません。１校に集まることで多様な友達と交流できるメリットをしっかり子どもたちが実感できる学校づくりが必要です。また探究授業などで教員の負担が大きくならないよう、地域コーディネーターや補助員の仕組みを都会以上に充実させていけると良いと感じています。

小堺委員

アンケートで「学校生活が楽しい」という回答が非常に多く、嬉しく思いました。同世代の仲間が集まって活動すること自体に大きな意義があり、集まるからこそ見えてくるもの、自分の居場所や楽しみがあるはずです。子どもたちが自分らしくいられる場所になり、小学生からも「あの中学校に行きたい」「お兄さん、お姉さんみたいになりたい」と憧れられる

ような学校になれば大変嬉しいです。

廣田委員
　通学手段について発言します。仮に市役所周辺に新しい中学校ができた場合、遠方から通う中学生の保護者の送迎負担が大きくなります。現在でも高校生の送迎で駅周辺が混雑しており、中学生も加われば大きな負担となります。
　単に「積極活用」という言葉だけで済ませず、ほくほく線や飯山線、路線バスの便数増加や駅からの二次交通（バスの接続等）の整備について、鉄道事業者やバス事業者と早い段階から話し合いを進めて利便性を高めていただきたいです。

企画政策課　玉村課長
　学校の立地や生徒の通学ルートが明確になった段階で、必要な二次交通や通学環境について関係機関と検討してまいります。

関口市長
　貴重な視点だと思います。

渡辺教育長
　地域との繋がりは非常に大きなポイントとなるため、しっかりと取り組んでいきたい。
　また、通学も大きなポイントです。市長部局と連携して行っていきたいと思います。

関口市長
　新しい中学校ができて様々な地域の生徒が集まることで、早い段階で「十日町市民」としての広い視点やアイデンティティを持てるようになることは非常に素晴らしいことです。そうした先輩たちの姿を見て小学生や大人にも良い影響が広がっていくことを期待しております。

関口市長
　報告事項「十日町市立学校教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画」について、事務局からの説明をお願いします。

学校教育課　渡邉課長
　報告事項「十日町市立学校教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画」資料２に沿って説明を行う。（省略）

関口市長
　今年８月に休日の部活動についても地域移行が始まり、下半期はより改善される可能性

はありますか。

学校教育課　渡邉課長
　時間外の数字は大幅に改善がみられています。

廣田委員
　部活動の地域移行により時間が改善している点は評価いたします。しかし、小学校の平均35時間を令和11年に30時間にするという目標ですが、月45時間以上を0%にするには平均20時間程度まで全体量を減らさなければ達成できないとシミュレーションしております。平準化（仕事の分散）だけでは目標が達成できないため、総量を減らさないといけないと思います。国や県、市からの調査統計などの回答負担を削減（調査そのものの精選）するとともに、保護者や地域、市長部局も協力し、全庁・全市を挙げた協力体制で教員の負担を減らしていく必要があります。

川崎委員
　教員のなり手不足にも関わる重要な問題です。地域の方々の協力に加え、スクールカウンセラー（SC）やスクールソーシャルワーカー（SSW）など専門的な知見を持つ人材の活用をさらに増やし、学校現場の負担軽減と課題解決につなげていくべきだと考えます。

関口市長
　何か他に意見ありますか。ないようでしたら、報告事項についてはここまでとし、少し時間が残っていますので、「その他」へ進みます。先ほどの議題、報告事項以外にも何かありましたらお願いします。

渡辺教育長
　国で進められている学習指導要領改定に向けた「カリキュラムの流動化」について、政令市を除く新潟県内で田沢小学校と中里中学校の2校が先行指定を受けて「先取り校」として取り組みを行っており、非常に注目を集めております。子どもたちが主体的に学びを決めて生き生きと活動しており、十日町市の教育にとって大きなプラスになると感じております。

関口市長
　今年５月に田沢小学校の６年生と話をする機会がありました。非常に元気な子どもたちが来てくれ、限られた時間でしたが、勉強になりました。
　また、生徒数が令和16年度に約500人、さらにその後も出生数の減少により一層の減少が見込まれます。最新の情報を常に共有しながら、プランのアップデートと議論を深めてまいりたいと思います。

久保田委員

教育委員として半年間関わらせていただく中で、子どもたちが「十日町に生まれて良かった、地元に戻ってきたい」と思えるような魅力ある地域づくりを皆さんと一緒に進めていきたいと改めて感じました。

関口市長

ありがとうございました。

まもなく会議終了の時刻となりますので、以上で議事を終了させていただきます。貴重なご意見を賜りまして、誠にありがとうございました。

それでは進行を事務局にお返しいたします。

南雲総務部長

大変ありがとうございました。それでは、閉会のあいさつを渡辺教育長からお願いいたします。

渡辺教育長

短い時間でしたが、非常に充実した会議となりました。教育をめぐる課題は多岐にわたりますが、「チーム教育委員会、十日町」で子どもたちが憧れる教育の場を目指し、一つひとつステップを進めてまいります。本日は大変ありがとうございました。

南雲総務部長

以上で本日の総合教育会議を終了いたします。大変ありがとうございました。